

瀬部小だより 6月号

平成18年6月2日



1 SBMBの募集について・・・奮ってご参加ください。

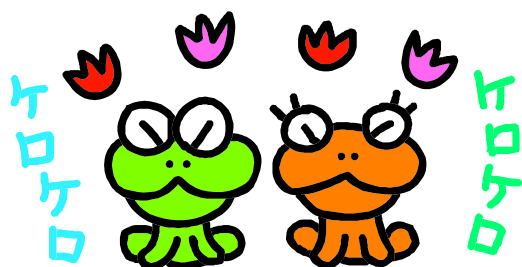
今年度も再募集します。継続してくださる方大歓迎です。新規で参加してくださる方も歓迎します。申し込み用紙は、町内を通じて全戸配布されます。もちろん保護者の方には、学校から募集要項を配布します。子どもの下校時刻で、見守りボランティアの参加は、どこでも、いつの時間帯でも、気軽に参加していただければ幸いです。

保護者の方から、家庭訪問時にこんな話を聞きました。

瀬部見守りボランティアの方が、とてもよくやってくさっています。最後の一人になるまで家の前まで送ってくださいます。以前、雨が降ったので迎えに行き、車に乗せて帰ってきたら『お子さんは帰って見えましたが。』と家まで訪ねてください、恐縮しました。(3年Mさんの話)

これは、すごいなと思います。瀬部小学校区には、熊沢蕃山の「知行合一の気風」があると卒業式で申しましたが、まさに、「分かったことや決めたことは、即実行する気風」が脈打っているなと感動しております。瀬部見守りボランティアの皆様、心より感謝申し上げます。

2 田畑を大切にすることは私たちの生命を守ることです。



瀬部小学校の周りでは、夕方になると「かえるの合唱」がのどかに聞こえてきます。市内の中心部ではこの風情を味わうことはできません。二十年程前には、蛍さえ見られたこの地域です。現在ではトラクターや耕運機で耕され、田植え機で稲が植えられています。

昔の手に比べれば、ずいぶん改良されてきています。しかし、文明の進歩か、マナーの悪さか、田んぼや畑の中には、ペットボトルや空き缶の投げ捨てなどがたくさん見られるようになりました。トラクターが巻き込むたびに、機械を止めてゴミを取り除かなければなりません。ゴミを田んぼに捨てる人にとっては、別に痛くも痒くもないのですが、農業をす





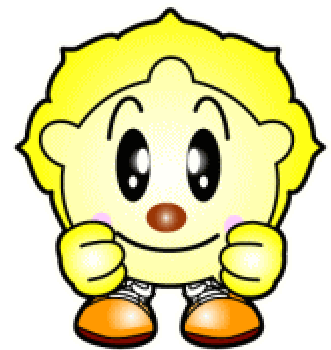
る方たちにとっては、困った問題です。この地域は、もともと小石が多い地域です。ですから、農家の方は、小石には神経をつけています。子どもたちの中に、農業経験のない子どもたちが多く、どんな思いで作物をついているか十分理解できません。田畑に石を投げ入れたり、踏み荒らしたりする子どももいるのは困ったものです。

どうか地域をあげて、子どもたちに農業の意味を教えあって行きたいと思います。学校としても私たちの食を支える農業、私たちの命を支える農業の大切さを、子どもたちによく理解させたいと思いますので、よろしく願いいたします。面白半分でペットボトル、空き缶や石の投げ込みが、やがては、私たちの生命を脅かすことになりかねないことを知らせたいと思います。

3 瀬部小学校のマスコット誕生・・・みんな輝け「セベスター」

瀬部小学校には児童会のヒーロー瀬部っ子マンがいます。

今回は、ヒーローのほかに、新たに全校の児童のマスコットが誕生しました。パソコン委員会が、全校の児童からキャラクターの名前を募集し、「セベスター」に決まりました。その名前の意味は瀬部小の「みんな一人ひとりが光り輝くスターになれるように」という願いが込められています。名付け親は、1年生の「わたる」くんです。



そして、キャラクターイメージをデザインして下さったのは、東京の辰巳小でバレーボールのコーチをしている茨城の谷コーチこと「タニコー」さんの作品です。きっかけは、辰巳小とのホームページでの交流によって始まりました。タニコーさんの話では、一宮市の市章のデザインと瀬部小学校の素直な子をイメージして作られたそうです。なお、「タニコー」さんは、辰巳小のキャラクターの「たもちゃん」や、辰巳小と交流している北海道の峰浜小のキタキツネをイメージしたキャラクター「キキ」も手がけられているそうです。

4 セルフディフェンス講座開催（5月29日）

小島幹子さんを講師に招き、4年生を対象にしたセルフディフェンス講座を開催しました。自分の身は自分で守る。そして、暴力にあったとき、被害を受けた「あなたは悪くない」「悪いのはあくまでも暴力を振るった人だ」という意識が大切なことを子ども参観者も学びました。とかく被害者は、私に落ち度があったから、こういう目にあったのだと考えがちですが、それは、間違っているというのが印象的でした。今年は、受講した4年生を講師に、全校集会でセルフディフェンスの体験をしようと計画中です。